

目的地までの行き方を調べよう

《目標・学ぶこと》

本課では、公共交通機関を利用してどこかに行くときに、目的地までの行き方を調べられるようになることを目標としています。本課では、①バス停で時刻表を見る、②目的地までの行き方を聞くという二つの方法を学びます。

《学習の流れ》

①は、時刻表の説明、時刻表、時刻表に書いてあることの解説、確認問題という構成になっています。

1. 教材を見ながら、時刻表について学習者と話をします。(時刻表を見たことがあるか、どんな場所に時刻表はあるか、など)
可能であれば、バス会社のホームページで学習者が利用するバス停の時刻表と一緒に検索して、バス停の読み方の確認などを行う。
2. 教材の時刻表と時刻表に書いてあることの解説を見ながら、番号順に説明をする。学習者が知っているようであれば、適宜省略しても良い。
3. 学習者に5ページの確認問題を解いてもらい、時刻表に書いてある情報が読み取れるようになったかを確認する。なかなか問題が解けなかったり、答えを間違えたりしている場合は、3、4ページの内容をもう一度確認する。

②は、会話の場面の説明、会話という構成になっています。

1. 会話の場面の状況を確認する。学習者同士でペアを作り、交互に役割を決めながら会話を読む。学習者とボランティアがペアになるときは、ボランティアが近くにいる人の役をする。
2. 2ページの時刻表を見ながら、会話の流れを確認する。「〇〇に行きたいんですけど…。」、「どれに乗ればいいですか?」、「どのくらいかかりますか?」など、行き方や掛かる時間を尋ねるときに使うフレーズを繰り返し確認する。

間違って乗っちゃった！

《目標・学ぶこと》

本課では、市電やバスに間違って乗ってしまったときにどうすればいいかを知り、実際に対処できるようになることを目標としています。本課では、目的地に行かないバス、市電に乗ってしまったときの対処法を学びます。

《学習の流れ》

バスの場合の構成は、会話の場面の説明、会話、路線（味4や県1）についての説明、ワンポイントアドバイスとなっています。

1. 会話の場面の状況を確認する。学習者同士でペアを作り、交互に役割を決めながら会話を読む。学習者とボランティアがペアになるときは、ボランティアが運転手の役をする。
2. 会話の流れを確認する。路線（味4や県1）についての説明が次のページにあるので、必要であれば解説を行う。「このバスは、〇〇に行きますか？」、「どうすればいいですか？」というフレーズは繰り返し確認する。

市電の場合の構成は、会話の場面の説明、会話、「向かいの電停」の写真、確認問題となっています。

1. 会話の場面の状況を確認する。学習者同士でペアを作り、交互に役割を決めながら会話を読む。学習者とボランティアがペアになるときは、ボランティアが運転手の役をする。
2. 会話の流れを確認する。「向かいの電停」の写真を使って、意味の解説を行う。（会話の流れを理解するのが難しい場合は、確認問題を先にする。）バスの場合と同様、「この電車は、〇〇に行きますか？」というフレーズは繰り返し確認する。
3. 路線図を見ながら確認問題を解いてもらう。確認問題を解いた後、会話の流れをもう一度確認する。

市電・バスの乗り方

《目標・学ぶこと》

本課では、市電とバスの乗り方を理解することを目標としています。本課では、市電やバスの乗り方や両替の仕方、TO熊カード（バスカード）について学びます。

《学習の流れ》

市電の乗り方は、①行き先を見る、②乗る、③降りる、TO熊カード（バスカード）について、両替の仕方という構成になっています。

1. ①の写真を見ながら、行き先の見方を確認し、車両の前、後ろ、横に行き先が書いてあることを伝える。②、③も同様に、写真を使って手順を説明する。
2. TO熊カード（バスカード）の説明と、車内での両替の手順の確認を行う。

バスの乗り方も市電の乗り方と同様に、①行き先を見る、②乗る、③降りる、という構成になっています。

1. 市電の乗り方と同様に、行き先の見方を確認する。②では、市電と違い、乗車してすぐにバスカードを機械に通すか、整理券を取らなければならないことを伝える。③では、教材の写真を使って、運賃の払い方と運賃がいくらかを確認する方法を説明する。

車内アナウンスを聞こう

《目標・学ぶこと》

本課では、車内アナウンスの内容を理解し、実際に耳にしたときにも聞き取れるようになることを目標にしています。また、市電やバスに乗るときのマナーも学びます。

《学習の流れ》

本課は、市電やバスが動き出すとき、市電やバスが動いているときの2つの場面に分け、全部で9つのアナウンスと、それに関する4つのマナーを紹介しています。

※車内アナウンスは



マナーは



のイラストで示してあります。

1. 吹き出しの中の車内アナウンスを繰り返し読む。特に聞き取れるようになった方がよいと思われるところは太字で示している。また、太字の部分は吹き出しの下に簡単な日本語で言い換えているので、併せて確認する。

吹き出しの下に、難しい語句やアナウンスに関連するマナーも記載しているので、こちらも併せて確認する。

教材に載せた車内アナウンスは熊本市の公共交通機関で実際に使用されているものなので、学習者には少し難しい表現が多いかもしれません。吹き出しの車内アナウンスと、吹き出しの下の「＝」の部分は、学習者が聞いて理解できるようになるまで繰り返し読んでください。